

名古屋城検定 過去問題 解答 中級

Q1.

答え：①

<解説>

名古屋城が完成するまでには、設計が第5次計画まであったとされています。その内、第1次計画では、大天守の北西側に堀をめぐらし、小天守が大天守の西側と南側に設けられていました。

第2次計画から設計が変更され、西側の小天守が除かれて南側のみとなりました。

<参考文献>

『新修名古屋市史 第3巻』P119～120

『一石垣刻印が明かす築城秘話－名古屋城』P64～66

Q2.

答え：③

<解説>

創建時、大天守の最上重の屋根は銅瓦で葺かれ、4重目から下は土瓦が使われていました。破風は各重で数や形を入れ替え、4重目は平側に唐破風、妻側に千鳥破風が置かれていました。地階は御蔵之間と言われ、金蔵や穴蔵などに分けられ、黄金水と言われる井戸が掘られていました。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P24～25

『名古屋城こぼれ話』P39

『歴史群像シリーズ よみがえる名古屋城』P42～63

Q3.

答え：①

<解説>

平成30年6月に本丸御殿が全面公開されたことを受け、各部屋と施された代表的な障壁画を結びつける問題です。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P56～57
『名古屋城本丸御殿』（名古屋城総合事務所）

Q4.

答え：①

<解説>

二之丸北部を占めていた庭園は、昭和28年文部省から「名勝」の指定を受けました。その後、名古屋市は二之丸庭園の整備に着手し、昭和42年に「名勝二之丸庭園」として開園しました。その2年後には、「二の丸茶亭」が開所。その後、旧庭園の東部を発掘調査及び整備し、昭和53年に「二之丸東庭園」として開園しました。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P90～91

Q5.

答え：②

<解説>

高須松平家四兄弟は、尾張藩と関わりをもちながら、激動の幕末を生き抜き、明治11年に銀座の写真館に集まり、記念撮影をしました。慶勝の3人の弟が幕末に継いだ家名を答える問題です。

<参考文献>

公式テキスト『知れば知るほど好きになる 名古屋城』P72～73